厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）
「見えづらさを来す様々な疾患の障害認定・支援の方法等の確立に向けた研究」
分担研究報告書

片眼のみの視機能喪失者の眼科医療機関受診状況調査

研究代表者 村上 晶 順天堂大学大学院医学研究科眼科学 特任教授

【研究要旨】片眼のみの視機能を失った者は、立体視の喪失、眼球形態の変化、視野狭窄にともなう生活のしづらさがあるが、良い方の眼の視力が 0.7 あれば現行の身体障害者手帳認定基準では給付に該当しないため、適切な支援が受けられていないとの指摘がある。

片眼のみの視機能喪失者について医学的調査を行い、適切な支援の在り方を検討するため、順天堂大学医学部附属順天堂医院眼科を受診し、対象期間の初診患者において、初診から 3 ヶ月以内に行った視力検査において、左右眼いずれかの一方のみの視力が 0.02 未満で、かつ視力の良い方の眼の視力が 0.7 以上を抽出して片眼失明のみの視機能障害者の医療機関受診状況を検討した。2021 年 10 月 1 日から 1 年間に初診時視力測定をおこなった 3623 名のうち片眼のみの失明者は 61 例（1.7%）であり初診後の 3 か月以内の最終受診時には 41 例（1.1%）であった。

同時期の初診患者における身体障害者手帳認定基準に相当する視力障害をもつ者の割合 1.3%に近い値であった。これらの結果は、日本における片眼のみの視機能喪失者の医療受診状況の推定に有用であると思われる。今後義眼装着状況の調査とともに、該当者の視機能保全と生活のしづらさへの支援のあり方の検討が望まれる。

A. 目的

2018 年 7 月に視覚障害に関する身体障害者福祉法の施行規則の変更が行われた。従来から視力と視野とについて、それぞれ障害の程度を判定し、2つの機能障害を相加して視機能障害を評価する方法がとられている。視力に基づく判定基準においては、改定前は両眼の視力の和の値を判定基準に用いていたが、現在は良い方の視力の値を判定基準としている。外傷、疾病により片眼のみの視機能を失った者は、立体視の喪失、眼球形態の変化、視野狭窄に伴う生活のしづらさがあるが、良い方の眼の視力が 0.7 あれば同法による視力障害による視覚障害者に該当しない。単眼が健常な場合、視野面積は両眼正常の視野面積の半分以上になるため視野の障害としても該当することもない。眼疾患や外傷により、単眼の視力のみでの生活者がもつ不自由に対する支援のありかたを検討することが求められている。本研究は、順天堂医院受診者における片眼のみの視機能喪失者について医学的調査を行い、生活の不自由に対しての適切な支援の在り方を検討した。

B. 研究の方法

①実施計画

研究デザイン：対象のないケースシリーズ、後ろ向き研究

対象：順天堂大学医学部附属病院順天堂医院眼科に 2021 年 10 月 1 日から 2022 年 9 月 30 日までの間の初診受診者で、片眼のみの重い視力障害をもつ受診者：電子カルテの患者検索機能を用いて、3623 名および診療録の視力測定結果および片眼のみの重い視機能障害を

有する記述がある症例の基本情報を収集し解析・検討した。

評価項目：

主要評価項目

①順天堂医院における、片眼のみの視機能喪失者の眼科初診患者の頻度と受診後 3 ヶ月以内の経過②片眼の視機能喪失により補装具等の使用が必要なものの受診状況

副評価項目

①片眼視機能喪失の原因

②他眼（僚眼）に合併する眼疾患の頻度とその内訳

・目標患者数：100 名

・同意取得：本研究は診療録ベースの後向き観察研究であるため、研究者は必ずしもインフォームドコンセントを受けることを要しないが、ホームページに研究の情報を公開することで、研究対象者等が拒否できる機会を保障することとした。

③観察および検査項目

受診理由、診断名、手術記録、年齢、性別、身体所見、既往歴、投薬歴、手術歴、眼科検査結果

(1) 研究対象者

片眼のみ視機能喪失をしている受診者

(2) 選択基準

順天堂大学医学部附属順天堂医院眼科を受診し、①対象期間の初診患者において、初診から 3 ヶ月以内に行った視力検査において、左右眼いずれかの一方のみの視力が 0.05 未満のものを抽出 ②対象期間中に、電子カルテの検索機能をもちて診療録に片眼の著しい視機能障害が推定される病名（片眼失明、単眼生活者、義眼等）および状態の記載がある受診者（再診者を含む）

C. 結果

12 か月間の順天堂医院眼科初診患者のうち視力測定が行われ記録されたものが 3623 名（年齢の平均 51.94 歳 標準偏差 24.1）から、いずれかの眼が 0.05 未満の視力であった受診者を抽出し、診療録を確認してさらに初診時あるいは最終受診時にいずれかの眼の視力が 0.02 未満であるものを選別した。

1. 初診時に良い方の視力が 0.7 以上かつ片眼が 0.02 未満のものは 61 名で 視力測定を行った視力測定初診患者の 1.68% [95%CI:1.36%-1.23%] になった。
2. 初診後、治療対象外と判断された症例および視力の良い方の眼をふくめて治療あるいは経過観察がおこなわれた症例の 3 ヶ月以内の最終視力をもとに評価すると良い方の視力が 0.7 以上かつ片眼が 0.02 未満は 41 名 (1.13% [95% CI:0.81%-1.53%])
3. 初診後 3 ヶ月以内の最終視力が身障者手帳給付相当のものは 47 名 (1.30% [95% CI:0.93%-1.67%])
4. 失明原因としては、続発緑内障、視神経炎後の視神経萎縮、網膜剥離、増殖網膜症、成熟白内障、角膜潰瘍後等があるが特定の頻度の高いものはなかった。

D. 考按

順天堂医院における片眼のみの失明者は眼科初診患者の約 2% を占めると推定された。視力のよい方の眼も含めた治療により、20% 前後の減少がみられている。障害の原因となる疾患が多様であり、かたよりのない実態を確認するには、多数の症例調査の必要性がある。

E. 結論

様々な原因でおこる単眼視覚喪失の影響を理解するには、多面的な研究が必要であり、調査研究の継続と異なる医療機関での調査を計画したい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Hirosawa K, Inomata T, Akasaki Y, Sung J, Yee A, Iwagami M, Nagino K, Okumura Y, Fujimoto K, Midorikawa-Inomata A, Eguchi A, Shokirova H, Fujio K, Huang T, Morooka Y, Kobayashi H, Murakami A, Nakao S. Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Outpatient Visits for Diabetic Retinopathy in Japan: A Retrospective Cohort Study.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案特許

なし